



2月9日(木)

次世代の健康づくりへ

鶴岡市 4月から「みらい健康調査」

慶大先端研の市民1万人協力、25年間追跡 解析技術駆使

慶應義塾大と鶴岡地区医師会、鶴岡市などは今年4月から、生活習慣病のメカニズムを明らかにして効果的な予防法の確立を目指す「鶴岡みらい健康調査」を開始する。3年間で市民1万人の協力を得て血液や尿を試料として採取し、その後、長期にわたって協力者の健康状態を追跡する。調査は、同大先端生命科学研究所のメタボローム解析技術を駆使して行い、将来の新しい市民健診や次世代の健康づくりに役立てていく。

生活習慣病予防や要因解明

「コホート調査」と呼ばれる手法で取り組む。同調査は一定の地域の住民を長期にわたって追跡し、経年の健康状態の変化から、病気の原因や予測因子を明らかにする手法。みらい健康調査では、がん、脳卒中、心臓病など生活習慣病に体質的な要因がどのように影響しているかを解明したり、病気を予測する指標（マ

「コホート調査」と呼ばれる手法で取り組む。同調査は一定の地域の住民を長期にわたって追跡し、経年の健康状態の変化から、病気の原因や予測因子を明らかにする手法。みらい健康調査では、がん、脳卒中、心臓病など生活習慣病に体質的な要因がどのように影響しているかを解明したり、病気を予測する指標（マ

管理センターで人間ドック健診を受ける35〜74歳の市民から協力を得て、新年度から3年間で約3000人ずつ、計約1万人の調査を見込む。人間ドック健診の際、血液検査と尿検査で余分に試料を採取し、生活習慣に関するアンケートへの回答を依頼する。調査参加費は無料で、人間ドック健診のみの費用となる。3年から5年など一定間隔で調査を繰り返すし、協力者

の健康状態を25年間程度追跡する。調査協力は、一度参加した後に取りやめることもできる。調査結果は個人情報から分らないような形で処理を行い、集団としてまとめられ、個人が特定されることはないという。調査で得られた成果は、シンポジウムなどを通して市民に情報提供していく方針。慶大医学部公衆衛生学教室の武林亨教授が調査責任者となり、山形大が酒田市など県内の

複数地域で実施している。「山形分子疫学コホート調査」とも協力しながら、調査を進めていく。調査に関わる鶴岡市政策推進課は「未来の子供たちのため、調査の成果を役立てたい。調査は次世代への贈り物ともなり、市民の協力をお願いしたい」と話している。